

目 次

序 文
まえがき

第 I 章 紹 介	1
1.1 外微分形式	1
1.2 テンソルとの比較	3
第 II 章 外積代数	7
2.1 k -ベクトルの空間	7
2.2 行列式	10
2.3 外 積	11
2.4 1次変換	14
2.5 内積空間	16
2.6 k -ベクトル間の内積	18
2.7 星印作用素	20
2.8 問 題	22
第 III 章 外 微 分	25
3.1 微分形式	25
3.2 外 微 分	26
3.3 写 像	29
3.4 座標変換	32
3.5 力学からの例	33
3.6 Poincaré の補題の逆	34
3.7 一つの例	37
3.8 もう一つの注意	38

3.9 問 題	39
第IV章 応 用.....	41
4.1 E^3 中の動基底	41
4.2 直交行列と歪対称行列の関係	44
4.3 基底達のなす6次元空間	47
4.4 ラプラシアン, 直交曲線座標系	48
4.5 曲 面	50
4.6 Maxwell の場の方程式.....	55
4.7 問 題	59
第V章 多様体と積分	60
5.1 紹 介	60
5.2 多 様 体	60
5.3 接ベクトル	65
5.4 微分形式	67
5.5 Euclid 単体.....	71
5.6 鎖と境界	75
5.7 微分形式の積分	77
5.8 Stokes の定理.....	79
5.9 周期と De Rham の定理	81
5.10 曲面, いくつかの例	84
5.11 鎖の間の写像	87
5.12 問 題	89
第VI章 Euclid 空間での応用.....	91
6.1 E^n の体積要素.....	91
6.2 巻き数, 写像次数	94
6.3 Hopf の不変量	96
6.4 まつわり数, Gauss の積分, Ampère の法則	97

第 VII 章 微分方程式への応用	100
7.1 ポテンシャル論	100
7.2 熱方程式	109
7.3 Frobenius の積分定理	111
7.4 Frobenius の定理の応用	124
7.5 連立常微分方程式	128
7.6 Lie の第 3 定理	131
第 VIII 章 微分幾何学への応用	136
8.1 曲面論(つづき)	136
8.2 超曲面論	141
8.3 Riemann 幾何学. 局所理論	153
8.4 Riemann 幾何学. 調和積分	165
8.5 アフィン接続	173
8.6 問 題	180
第 IX 章 群論への応用	182
9.1 Lie 群	182
9.2 Lie 群の例	184
9.3 行列群	186
9.4 行列群の例	187
9.5 両側不変微分形式	191
9.6 問 題	195
第 X 章 物理学への応用	197
10.1 状態空間と位相空間	197
10.2 Hamilton 系	200
10.3 積分不変式	207
10.4 括弧式	215

10.5 接触変換	220
10.6 流体力学	225
10.7 問 題	232
参考文献	236
記号小辞典	239
訳者あとがき	241
索 引	245

